資料７

【第１回会議（6/4)】　　北海道 Society5.0 推進会議における委員意見への対応状況

No.	委員意見	対応状況
１	川村座長） 　ＫＰＩとして、一番トップに来るべきものは、サイバー空間と実空間が高度に融合されているのかどうか、それから経済的発展が進んでいるのかどうか、社会課題の解決が進んでいるのかどうか、それを両立する人間中心の社会になっているかどうか、これらが測られなければいけないので、これらがどこまで進んだのかというものになっていなければいけない。そういう説明が成り立つＫＰＩでないと、Society5.0 の推進を測るためのものにはならないと思う。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
２	小松川委員） 　北海道では高校で「情報Ⅰ」が必修になって、現場の先生方は、すごく苦労されているが、地道に進んできている効果が出ている。それから、中学校の技術・家庭科では、情報にかなり力を入れていこうということで、かねてより、動いてきている。そうすると、どのように、この技術と向き合いながら、各地域が人材育成をできているのかが、まさに、問われる時なのだと思う。うまく事例を拾っていって、それをＫＰＩにつなげていただけるような形になると、すごくいいのかなと思うのが１ 点。 　それから、北海道テレコム懇談会が、２年間くらい、北海道のいろいろな事例を発掘して、いろいろな地域で、いろいろな形で、民間、行政の方が連携しながら、お年寄りを支援したりだとか、そこに高校生が入っていったり、地元の人助けに参加してみたり、と結構いろいろ事例がある。そういったものの成果を、ＫＰＩで少し拾えるようになってくると、今日の話の中でも、こういった議論をしてよかったという振り返りの場になるのではないかと思うので、是非、そういった事例を上手く拾い上げてもらえると良いのかなと思う。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
３	西野委員） 　ＫＰＩの進捗状況について、市町村のオープンデータは、179 団体のうち 176 団体が公開していますが、その中身を見てみると、例えば、たくさんのデータを出している市町村もあれば、出していない市町村もあるし、また、機械判読できないデータや５年以上更新されないデータもあって、格差がバラバラだという部分もある。 　オープンデータをきちんと出していかないと、データの利活用という部分にも、反映されていかないので、こうしたことも、今後の Society5.0 に向けては、大切なことかなと思う。	・オープンデータの推進に関しては、道の役割として記載（別添１の 10 ページ）するとともに、具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
４	西野委員） 　一つの指標ということで、例えば、デジタル庁で出しているウェルビーイング指標、これは客観的指標だとか主観的指標だとか、二つの指標を見比べながら、幸福感や実感を出しているので、こういったことを、今後ＫＰＩを考える上では一つの候補だと思う。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。

資料７

【第１回会議（6/4)】　　北海道 Society5.0 推進会議における委員意見への対応状況

No.	委員意見	対応状況
５	乗木委員） 　北海道は極めて広大なこともあり、それぞれの地域で事情が違ってくる。それを一つの計画にまとめ、目標を定めて推進していくので、様々な地域性をしっかり捉えた上で計画を立てていく必要があると感じている。	・今後、地域の意見も把握した上で、具体の施策を検討します。
６	佐々木委員） 　北海道らしさを Society5.0 の目標に掲げていってもらえたらいいなと思っており、どちらかというと産業の方から見る形になるが、北海道における雪の問題であるとか、1 次産業だとか、観光だとか、そういった産業が、今後このＤＸをうまく活用することによって変わっていけるのかも、是非、北海道らしさの一部として、ＫＰＩに組み込んでもらえたらと思う。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
７	中元委員） 　国内の事例を取り上げることも大事ですけれども、北海道という地域柄、海外の事例、特にニュージーランド辺りは非常に北海道に似ているので、人口が少ない中で、キャッシュレスが進んでいたりとか、そういった国の事例を取り入れて、斬新なＤＸ推進や、これだけの広大の土地がある中で、様々な課題を解決する糸口を見つけることも必要なんじゃないかと思ったりしていた。どういう事例を取り入れて北海道らしいＤＸ推進ができるかを、一緒に考えていきたいと思っている。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
８	川村座長） 　多分、人とＡＩ、ＩＴの役割は、その線引きが今大きく変わってくることを前提とすると、流動的にいろいろなことは考えていく必要があるとは思うけれども、Society5.0 そのもののテクノロジー的な側面も大事だけれども、やはり「Society」なので社会との連携の中で、社会をどうリデザインしていくか。その中でＩＴとかＡＩがどう使えるのか、社会が良くなることが先だと思うので、そういう意味で、少しでも貢献できる指標、内容、議論などを次回以降も皆さんと一緒に進められたら良いと思う。	・具体の施策及び成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。

資料７

【第２回会議（7/8)】　　北海道 Society5.0 推進会議における委員意見への対応状況

No.	委員意見	対応状況
９	入澤委員） テクノロジーの進化とともに、犯罪が高度化しているという社会的な課題があり、ＳＮＳを使った詐欺事件とか、いろいろな高度なものが増えている。テクノロジーと一緒に生きていく時代には、生活を守る観点からも、道民一人一人のデジタルリテラシーの向上も、必要だと思う。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
１０	入澤委員） 人材育成、リスキリングに対する補助金などもたくさん出ていたりするので、そういうリスキリングなどでＩＴ人材を作っていくみたいな考え方も、一つあっても良いと思う。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
１１	入澤委員） 今後の５年間のテーマでいくと、おそらく、ロボティクス分野がすごく進化するだろうと個人的には思っている。北海道で、ヒューマノイドロボティックスというか人型ロボットのような、テスラのオプティマみたいな世界感を、道の中で、一次産業や、本当に労働力不足に陥っているところに対して、提供できるようなところも、強化というか、大学と一緒になって何かできたら良いと思っている。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
１２	西野委員） デジタル庁で出しているウェルビーイング指標、地域幸福度、これは客観的指標だとか、主観的指標も織り交ぜた指標なので、一つのＫＰＩ、指標として設けることで、本当にこの Society5.0 にどう向かっているかという一つの参考にもなるのかなと、意見を述べさせていただきたい。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
１３	乗木委員） ５年間の中で何がどう変わっていったのか、いろいろ振り返りのコメントはあったものの、実際に、この５年間の取組を通じて、構想に掲げた 10 年後の未来社会の姿に、どれくらい近づいたのかということを、改めて確認したほうが良いと思う。	・現時点では、10 年後の姿を測る定量的な指標がないため、進み具合を客観的に判断することは困難ですが、次期計画では、原則として 2030 年を目標とした定量的な指標を設定する考えであり、これにより現在値を把握することで、目標までの到達度合を確認できる予定です。

資料７

【第２回会議（7/8)】　　北海道 Society5.0 推進会議における委員意見への対応状況

No.	委員意見	対応状況
14	川村座長） 概念図については、先ほど入澤委員のコメントにもありましたが、サイバーセキュリティの高度化も、この雨雲・と雨（課題）になっていくのかなとか、あとは、高度成長の時に作られたインフラの老朽化、手間や予算をかけられない中で、どのようにアップデートしていくのかも課題になるところだし、そこにＡＩとかＤＸを活用することも、すごく大事なのではないかと思う。その辺りが、この計画の中で５年経って今後５年で新しく出てくる、外的要因や脅威となるのかなと思う。	・概念図（別添１の８ページ）の雲（課題）として記載しました。 ・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
15	川村座長） ヒューマノイドが世界を変える、次の技術になっていくと思っている。安価で大量に手に入れられるものが中華製となると、サイバーセキュリティの話で、例えば何かスイッチ一つで、突然反乱を起こすみたいなＳＦめいた未来も本当にないとも言えない。ロボットの手も借りなければいけない状況が、少なくても５年から 10 年以内にはやってくると思うので、どう考えるかも、今のうちから、少し議論しておく、そんなことも少し頭に入れながら、今回の計画は、考える必要があるのかなと思う。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
16	川村座長） 次期計画を考えるに当たって、よく考えたＫＰＩにして欲しい。道しるべになるはずで、本来は、既にどこかで数値をカウントしているからそれをそのまま持ってくるという発想ではなく、行くべき道を、座標として、正確に表すものは何かを考えた上で、たまたま今把握している数字が使えるのであればいいけれども、という発想でＫＰＩ作って欲しい。 ＫＰＩを立てるときには、この数字が良くなることは、この推進計画が、全体として浸透して、世の中を良くしてくことに結びついていることが端的にわかる形にして欲しいと思う。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
17	川村座長） 人材育成について、この計画の中では、ＡＩを活用しなければいけない社会の側から、ＡＩ活用を一生懸命に、新しく取り組む人を、きちんとリスペクトして、その頑張りが色々なことを改善していって、生産性が上がるのであれば、きちんとそれに報いた報酬や、インセンティブが、設定されるということを、当たり前にしていかないと、ＡＩの活用は進まないと最近感じている。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
18	入澤委員） 現行計画を作ったときのメンバーは今どういう思いなのか、意見を聞いてみたい。策定時にはどういう考えで、今振り返ってみるとこうだから、今度はこうした方が良いといった意見もすごく貴重かなと思う。	・次回会議までに聞き取りを実施し、結果をお示しする予定です。

資料７

【第２回会議（7/8)】　　北海道 Society5.0 推進会議における委員意見への対応状況

No.	委員意見	対応状況
19	西野委員） 　次期計画の策定に向けては、徹底的に生成ＡＩを使って、計画策定を考えてみてはどうか。今後、骨子案や、原案などが出てくるので、例えば、生成ＡＩは、もちろん、データ分析もできるし、色々なアイデアも出してくれる、さらには、こういった会議の記録をＡＩに読み込ませれば、それを簡単にまとめて、ポイントも示してくれるということで、徹底的にＡＩを使うことによって、どれくらい計画策定の手間を削減できるのかも、ひとつ検証してみてはどうかと思う。 川村座長） 　計画づくりに率先してＡＩを使うべきというのは、そのとおりかなと思う。例えば、今日の会議の文字起こし、発言趣旨を粒度を揃えて整理するとか、子どもの目線での計画の評価なども、ChatGPT にやらせればできる。多様に評価するために、ＡＩを使うこともできるので、色々な使い方ができると思う。 　是非、原案を作るときにも、ＡＩを使って時間を減らすというよりは、できれば、同じ時間をかけて、さらに内容の濃いもの、道民の皆様にとって、様々な、あらゆる角度から見たときに、良いものになれば良いと思う。	・文字起こしなどで一部、ＡＩを活用しており、今後も積極的に活用してきます。
20	乗木委員） 　せっかく北海道として計画を作るのであれば、その議論の視点の一つとして、北海道の地域特性に着目すると良いのではないかと感じた。	・本道の地域特性も考慮した施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。
21	入澤委員） 　ＤＸを進めるためには内製化が重要と、ずっと言っているが、多くの企業が自分たちで開発チームを持ち始めるようになって、ＩＴ企業の社員数を数えても、ＩＴ人材は増えていないよう見えるが、内製化された分も全部含めて数えると結構増えているとは思う。ここの取り方は難しいと思うので、どうＫＰＩを設定するのかは考えたほうが良いと思う。 　もう１つ、デジ田交付金の活用、令和６年度第２回会議で、80 か 90 ぐらいの市町村で 178 件のデジ田交付金が北海道でも採択されていると、すごいなと思った。めちゃくちゃデジタルが浸透している。これ一つのＫＰＩというか、達成したことじゃないかと。５年後もデジ田という制度があるか分からないが、これまで 80～90 だったのが、179 になるのが理想なので、そういう一つの目標、ＫＰＩもありなのかなと思う。	・成果指標の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。

資料７

【第２回会議（7/8)】　　北海道 Society5.0 推進会議における委員意見への対応状況

No.	委員意見	対応状況
22	小松川委員） 　今日こういった議論、いかに子供たちに伝えていくか。一番ポイントになるのは、先生です。中学校、高校の先生方が、今日みたいな議論をちゃんと理解してもらう場をどう作っていくか、北大の入試なんて（ChatGPT を使うと）100 点取れるのに、そのために頑張って、学校では教育してしまう。この矛盾を、地域全体、北海道全体で、今そういう時代じゃないことを、高校の先生とか、中学校の先生に例えばオンライン使ってうまく共有する場を作るとか、北海道教育委員会もうまく連携して動くと、大分雰囲気違うという気がする。せっかくこういった議論しているのにそれが現場に降りていかない残念感がすごくあるので、そういうことをうまく、北海道としてもやっていただけるといいかと改めて感じました。	・具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第４回推進会議予定）。